

春彼岸号 第 99 号

〒 950-2022 新潟市西区小針 4 丁目 5 番 1 8 号
 真宗仏光寺派 瑞林寺 光輪会
 電話 (025)266-1846
 FAX (025)266-1907
 ホームページ <http://zuirinji.com/>



郷倉 千朝 紅梅 (当院蔵)

みなさままどろぞお参り下さい

※月参り当日は休みます。

布教使 三重県鈴鹿市
常楽寺住職 岸本 秀一 師

お日中 十時三十分
お 齋 正 午
お逮夜 一時十五分

三月十八日 (金)
春彼岸法要
無量寿廟法要
本山差向布教

老院の語る
親鸞聖人の越後
お念仏の歳時記 ⑳

親鸞の越後七不思議 (6)

これまで瑞林寺の近辺の土地の姿を、親鸞聖人に縁の深い鳥屋野の逆竹、山田の焼鮎や隣村の平島の波切りのお名号さまの「いわれ」を訪ねてみました。親鸞聖人が越後を歩かれた八百年前の当時は、越後平野の一面が湛水地域でまだ信濃川も西川も定まっておらず、あちこちの葦沼の水面のところが、ろに鳥屋野島や山田島、的場山や緒立の小高い島々が浮かび、川魚とともに海から上がってくる鮭や鱒など、豊かな漁獲を生業をする人々が住み着いていたことがはつきりしてきました。

五百年前には、平島を中心にその一帯に新潟があつたという、「平島郷新潟」という地名の発見が近々見つかりました。

上流からの泥砂の堆積が自然に小高い堤防を作り、(東) 信濃川や西(信濃) 川に川床ができ、その二つの川の交わる平島界隈が人々の集まる基地、新潟の津になつたと、この頃ロマンを感じます。

小針もこの平島の辺が開墾され始めた

のか、小針の針は開墾の「墾」(ハリ)の当て字ときいておりますが、平島郷の近くの小さな新しい開墾地が小針でしょうか。

わからず、なぜだろうと考えさせられることなど辞典にあります。

古来、越後には七不思議の伝えがありました。

越後平野を切り開く門徒

親鸞聖人の七不思議の御旧跡のお参りが盛んになるのは四百年前頃、江戸時代に入ってからようです。

これは信州の滅亡した武田方の門徒が川を下つて信濃川、中ノ口川、西川の堤防沿いに、日本海を大阪石山本願寺の一向一揆で織田信長と戦った北陸の門徒衆が海辺に住み着き、その人たちが着々と越後蒲原の潟沼の新田開発を進め、生活の基盤の確立をいたしました。集落ができ、開法の道場が集まっていた門徒農民は、次々に各村々にお寺を建てるのです。

厳しい気候と、苛酷な葦沼の蒲原大地を聖人の南無阿弥陀仏の心で切り開いた、その開拓魂のお念仏の信心の火は蒲原全体に燃え広がります。親鸞聖人の徳を慕う心は、七不思議のご旧跡参りの盛況となり、越後から広く京の都をはじめ、全国諸国の門徒のもとにまじります。

悪人が仏になる不思議

不思議とは、「思い計られないこと」「奇怪」「そうであることの原因がよく

「いつの不思議をとくぞなき
 仏法不思議といふことは
 弥陀の弘誓になつたり」

と、阿弥陀さまはすべての人々を善悪差別なく、等しく救い取らねばおかないと誓われる。弥陀の本願こそが仏法の不思議と説かれます。

私たちの思いをえがく理知や理性・思議を尽くしても人間の根本問題の解決、安心と救いはありません。

人間の思案のかぎり、力のかぎりを尽くしても、どうにも暗黒の闇に沈む運命の凡夫が浄土に生まれて仏に成ること、これこそ不思議のなかの不思議です。

仏法の不思議とは、救いなき人間、地獄真つ逆さまの悪人が、私の思い・思議を超えて救われる事実を表します。

聖人の七不思議の御旧跡の誕生も、越後の門徒の人々が自然の不思議に事寄せ、凡夫が仏に成れる大いなる信心の歡びを伝えた証です。

淤泥華

★一月十九日、老院の小針・青山公民館にて「小針・青山・小新・平島・寺尾の今昔を語る」講演会、12名の参加者で、講堂は満員となりました。

★その後、講演会の反響か、ケーブルテレビの『大倉修吾のじよんのび絵日記』という番組のため瑞林寺に来院、老院と大倉修吾さんが対談、西区の歴史、移り変わりや瑞林寺の歴史などが話題でした。

★稚児の海真は春から新潟第一高校に入学することになりました。毎日自転車です。体力をつけて、勉学に励んでもらいたいです。

(住職)



瑞林寺 光輪会 春の一日バス研修旅行
第2弾 越後七不思議と豪農と三条別院・弥彦の旅

昨年「親鸞聖人越後七不思議と越後豪農の旅」に引き続き第二弾として、七不思議の一つ田上つなぎ榎と豪農田巻邸椿寿荘から大谷派（お東）の三条別院と親鸞聖人の御旧跡の多い弥彦巡りを計画しました。

三条別院ができた背景には、新潟の仏光寺派のお寺の東本願寺からの転派が関係しています。また弥彦神社は親鸞聖人も参拝され、親鸞聖人ゆかりの地として数々の御旧跡があります。また明治以前は弥彦神社に親鸞聖人のお木像が安置され、真宗門徒がたくさんお参りしていました。

今回は最後にだいろの湯でお湯につかるコースです。また御老院がガイドとなって語ります。どうぞご参加ください。

★申込みは別紙の案内状の申込み書にてお願いします。

- ★出発日 5月12日(木)
- ★参加費 一人 8,000円 (昼食代含む)
- だいろの湯 3,000円 (希望者)
- ★出 発 瑞林寺 午前8時(午前7時45分本堂集合)
- ★締 切 4月末日まで 定員35名

研修行程


瑞林寺 (7:45本堂集合 8:00 出発) =了玄寺・つなぎ榎=椿寿荘=三条別院
 =弥彦山山頂 (昼食) =聖人清水=宝光院=岩室・浄泉寺 (庭園) =だいろ
 の湯=瑞林寺 (17:30着) だいろの湯ではお風呂・はんばぎ脱ぎ (希望の方) 瑞林寺着 (19:30頃着)

院代の御尊父様 北海道北見市 川村勝司様 93歳でご往生、去る二月二十三日ご葬儀でした。

長いこと瑞林寺の同光輪会にご苦勞頂きありがとうございました。

お申	平成二七年(世話方)
釋瑞穂	元世話方 伊藤 稔 行年93歳 平成27年1月3日往生
釋純勝	元世話方 渡辺 與七殿 行年101歳 平成27年5月20日往生
釋法蔵	元世話方 樋口 虎蔵殿 行年85歳 平成27年8月21日往生
釋浄香	元世話方 小林 敏郎殿 行年95歳 平成27年8月27日往生
釋浄月	元世話方 市川 政一殿 行年90歳 平成27年12月1日往生
釋浄祥	元世話方 樋口 信一殿 行年88歳 平成28年2月20日往生
釋守道	現世話方 近藤 守 殿 行年74歳 平成28年1月3日往生

聖人流罪の道を歩く
 二十五日間の旅 前田 隆夫



四日目、彦根駅を出発して一時間くらい歩き、街中から古戦場として知られる賤ヶ岳のふもとを回り込む。すると琵琶湖の湖畔が見え始めた。

十時ごろ激しい雨に打たれ、近くの漬物屋さんの店内で雨宿りさせてもらい雨具を着用。

お茶までごちそうになるが雨も小降りになる様子もなく歩き始める。この時の道路の温度計の表示は十二度。屋過ぎから天気は雨風となり、みんなの口数もだんだん少なくなり始め、ただ黙々と下を見ながら歩く。

夕方になり暗くなり始めたころの道路の温度計の表示は六度を示している。手袋をしていても傘を持つ手はかじかんでくる。

木之本駅につき駅の中でストレッツチ、冷えた体によかった。滋賀県のサポーターは今日までである。宿についてからはとりあえず濡れたジーンズを乾燥機にかけて、室内のエアコンを入れて衣服を乾かし、熱い風呂につかる。

この日の総距離は三十二・四キロ、歩数は三九、二百八十九歩。

春彼岸法話

法話 住職 廣澤 晃隆

八相成道(一)

天宮を捨てて

人は何処から来て、何故生きて、何処へ死んでいくのでしょうか。

「彼岸」という言葉は、その「何処」から来て、「何処」へ死んでいくのか、その「何処」かを示して下さる言葉です。

「彼岸」に対して、この世は「此岸」と申します。苦しみ悲しみ多きこの世の「此岸」で、私たちは何故生きねばならぬのでしょうか。

そのことを、お釈迦さまのご生涯を八相成道として表し、私たちの人生に当てはめ教えて下さいます。今回から順番にひも解いていきたいと思います。

八相成道の第一番目は降兜率です。『大無量寿経上巻』に

兜率天に処して正法を弘宣し、かの天宮を捨てて、神を母胎に降す。

とあります。

「兜率天」とは、この世界を欲界・色界・無色界の三界に分け、その欲界にはまた地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上の六道があります。その天道の一つが兜率天という天人の世界です。

兜率天は五欲(食欲・色欲・睡眠欲・名譽欲・財欲)が全て満たされ、寿命も四千歳と云われています。

何もかも満たされた兜率天の世界を捨てて、お釈迦さまは人として生まれてきました。

私たちもまたその天上界を捨ててこの世にやって来たのだそうです。毎日歓楽に明け暮れて、いったい何の不足があつてか、この世に生まれてこようと思つたのでしょうか。

それは、四千年の長い歓楽とはいえず、過ぎ去れば虚しく、かえってそれを失う苦しみの方が、その楽しみに比較してどれほど激しいものか。さらに無限の暗黒に呑まれる恐怖は耐えがたいものがあるのです。

神を母体に降す

人は希に夢のような楽園に生まれることがあります。それは運がよかつたと考えられがちですが、その裏には刻苦精励の結果であるという道理があります。しかしその楽園も過ぎ去る年月にはかないません。たちまちに老い、死別の悲苦に沈まねばなりません。刻苦精励の結果を得た楽しみも、頼むに足らぬことを知って、正しい法を求めた人が、お釈迦さまでありました。その第一歩が「天宮を捨てて、神を母体に降す」であつたのです。

我々はどうのように生まれてきたのかを七高僧のお一人善導大師はこう教えて下さいます。

すでに身を受けんと欲するは、自らの業識をもつて内因となし、父母の精血をもつて外縁となして、因縁和合するがゆえにこの身あり。

つまり、父母は私を産んでくれるにあつた縁であり、生まれようと決断したのは自らの業識、私自身なんだということです。自ら選んでこの激しい苦悩と悲しみの世界に生まれてきたのが我々の意志であるようです。

高齢者の幸福度

高齢者の幸福度は何に関係しているのかと

という調査がありました。驚くことにその幸福度は若い頃よりも高齢になつた方が拡大していました。男性は配偶者の同居。女性は経済面での安心と精神的自立が幸福度として高く評価されていました。その背景としては、その人それぞれの価値観や考え方の違い、生活の姿勢といふことが影響されるとあります。注目すべきは一般的に言われるようなお金の健康が一番ということではないようです。

その内容としては「しつかり若手に受け継いだ」「子や孫から慕われている」という家族に対しての幸福感が大きいようです。女性の経済面での安心といつても、生活できる範囲で薬を飲む毎日。ここが痛いあそこが痛いと言いつつながらそれでも暮らしています。

生きる価値観や考え方、生活の姿勢は、若い頃からの刻苦精励の賜が現在の生きる幸福感になつている結果ではないでしょうか。

人として生まれた意義

物の豊かさや便利さより、この生老病死の苦しみ的人生を、人と人が支えあつて生きていく。つまり大切な人に出会うために私たちは自ら選んでこの世に生まれてきた。そこに本当の喜びがあり幸福感がある。その価値観と考え方、生きる姿勢が、お釈迦さまの一生涯として八相成道で説かれています。

お釈迦さまがルンビニの園で、マヤ夫人を母として生まれた時、人間も神々も動物も、虫や植物もみんな歓喜したと記されてあります。これは私たちが人として生まれた意義を、一切生きとし生けるものを担う、仏のさとりを得る大切な身であるということを示されているのではないのでしょうか。